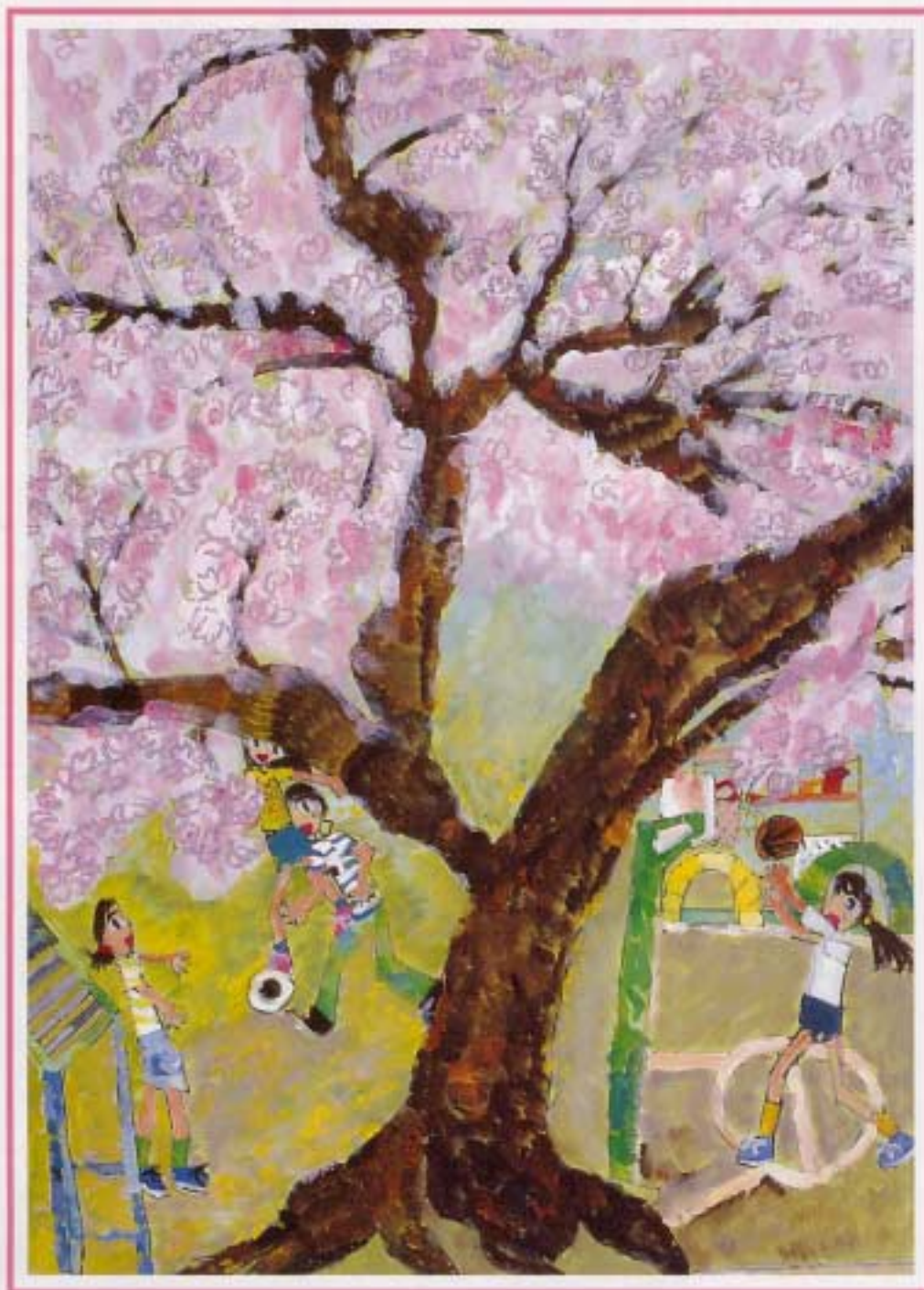




第18号

2001.4



社団法人 千葉県緑化推進委員会

なるほど! ソフト林業 自然を取り入れた生活をするために

ガーデニングが流行している中、最近ではさらに一歩進み、ウッドデッキなどの自然を取り入れた生活スタイルもかなり一般化してきました。そこで今回は、「自然を取り入れた生活をするために」をテーマに、森の魅力やエネルギーを暮らしに役立てる5つの例をピックアップし、ご紹介します。

参考図書「まちの森生活—ソフト林業入門」
(社)全国林業改良普及協会 ☎03-3583-8659

森のガーデニング

ソフト林業というのは、プロのようににはできないけれど、アマチュアなりのやり方で森の機能を引き出したり、暮らしに役立てたりすることです。

里山や郊外の雑木林を手入れする(きれいにすると、柴、間伐材(小丸太)、枝、落ち葉、ササなど、いろいろなものが出てきます。これをどう活かすか、アイデアをみんなで出し合ってみましょう。自宅で、街路で、空き地で、公園で、川原で…。自然材料ですから、活かせばおしゃれな素材となります。基本は、細かな設計図などいらないアドリブと人間スケール(あなたの体で長さを測るなど、人の物差しで発想する)です。

まず、森の手入れで出たものを森林所有者の了解を得てからもらいます。たとえば、みどりのボランティアの活動に参加して、許可を得て、持ち帰るというのも良いでしょう。これを自宅まで運びましょう。軽トラックがなくても大丈夫。乗用車でも工夫次第でかなりの間伐材を運べます。ワゴン車なら問題なし。試してみましょう。

次に、森のめぐみで庭をデザインしてみましょう。といっても難しいスケッチや寸法どおりの材料はいりません。森から得た自然材料のかたちは千差万別。そのおもしろさを活かしてみましょう。どこに、どう使うか、家族でアイデア会議を開くのも楽しいでしょう。途中で失敗してもどうってことありません。たとえ不恰好でも演出次第でおしゃれになるものだから。

森を味わうにぎやか料理

ゴールデンウィークや夏休みになったら、自宅の庭や川原、キャンプ場などで楽しみたいのがバーベキュー。ところで、私たちの住む千葉県は、竹の子の有名産地でもあります。そして、その竹の子が成長した竹が、意外に丈夫な素材だということをご存知でしたか? その竹を利用するのがタケ網バーベキューです。バーベキューの網にタケを使ってみましょう。タケ網は、燃えにくく、きちんと肉が焼けます。使ったあとは火に入れて燃やすだけでOKです。

森のエネルギーといえば、やはり薪や落ち葉、木炭でしょう。薪や落ち葉、柴などの燃料に使えるものは、森を手入れするといくらかでも出てきます。これをたくさん使う(燃やす)ことは、長い目で見ると森を育てることにもつながります。

たとえば学校の行事や町内会のイベントで、タケ網バーベキューや、落ち葉を利用した焼きいもをしてみたいかがでしょう。森のエネルギーのあたたかさや森の味と一緒に楽しむことができるはずですよ。



タケ網バーベキュー
バーベキューの網にタケも焼っこみよう。
タケ網は、燃えにくくきちんと肉が焼けます。
焼ったあとは火に入れて燃やすだけでOK



つるも利用した
ハンギング



間伐材と薪も丸太をつくらったベンチ

木炭ですまいを快適に

木炭の使い道がどんどん広がっています。料理の燃料としてだけでなく、その特性を活かして住まいを快適にする資材として注目されています。飲料水や風呂に入れたり、冷蔵庫、押入れに置いたりといった利用です。水に含まれる不純物、においのもとを木炭が吸収してくれるからです。

また、最近住宅の床下に敷き詰める利用方法が普及してきました。梅雨時など湿度が高くなった時、床下に敷き詰めた木炭が水分を吸収し、適度な湿度を保ってくれるからです。そのおかげで、住宅に使われる木材を湿気によるカビの発生から防いでくれるのです。

森のめぐみからつくられた自然材料の木炭を、うまく使いこなして、「森の快適生活」を家庭で楽しんでみませんか？



※つるどあれど
かごなどに入れて

※リビングに… リラックスできます。



※パソコンの周辺機器も
吸収してくれます。



※床下に敷き詰めた
木炭



※家の周りの樹木によって、冷暖房も節約できる

森でまちを冷やそう

「まちの森生活」で大切なポイントに、樹木を効果的に利用することがあります。樹木は日差しや風を調節してくれるからです。

たとえば、駐車場の周りに効果的に配置された樹木は、夏の日差しを遮り、車が焼けるように暑くなるのを防いでくれます。その分クーラーを利かせて車を冷ます必要がなくなり、結果として消費燃料や排気ガスを減らすことが期待できます。

また、コンクリート、アスファルトのかわりに、駐車場の敷地に木レンガを敷き詰めることで、照り返しや地温の上昇、夜間の冷却を和らげる効果が期待できます。

家の周りの樹木もこうした工夫を考えてみましょう。落葉樹を効果的に配置すれば、夏の日差しを防ぎ（冷房費の節約）、冬の日当たりを確保して建物を暖めてくれます（暖房費の節約）。

こうしたちょっとした工夫を積み上げていくことは、身の回りの地球温暖化対策ともいえるでしょう。

ランダの森

ベランダの緑化は、マンションに暮らす人にとっては身近な話題です。景観を高めるばかりでなく、最近ニュースなどでも紹介されるビルの屋上や屋根などの緑化同様、建物全体の省エネ効果をもたらします。

小さなスペースを活かすアイデアの中で、ウッドデッキやエアコンを角材で囲んでプランター置き場を作るなど、木を取りこむ工夫にも挑戦してみましょう。

※エアコンも木でおさう工夫

排気を考え、
開口部は広く
開け方方がよい



森の素材を生活の中に取り入れて暮らすことは、気持ちが豊かになるだけではなく、結果的に森林や地球環境の保全にもつながります。なかなか森に入るチャンスがないとおっしゃる方も多いかと思いますが、当委員会では年間を通じて、いろいろな機会を提案しております。新しい世紀をきっかけに、もっともっとみどりに親しむ生活を始めてみてはいかがでしょうか。

※6ページで「まちの森生活」の本をプレゼント

千葉の散歩道

県立北総
花の丘公園
(印西市)

花や緑の知識を深め、 春を思い切り楽しもう

印西市の千葉ニュータウンに昨年4月、「県立北総花の丘公園」が一部開園しました。田園と都市との共生をうたったオープニングイベント「ラーバンフェスタ2000」は大勢の人でにぎわいました。およそ10haの敷地には、「花と緑の文化館」、北総の自然を再現した雑木林、池や芝生広場などが広がっています。

公園の中心となる「花と緑の文化館」に入ると、明るく開放感あふれる植物園のようです。ここは「アーバンフラワープラザ」。イベントやコンサートも開かれます。カトレア、ポインセチア、グズマニア、スイートアリッサムなど色とりどりの花々が咲き競っています。隣りには「緑の相談所」が併設され、図書

も閲覧できます。また、講習棟では園芸の基礎やガーデニングなどの教室、ハーブ類など草花に関係した調理教室が開かれています。その他、花や文化を紹介する展示コーナーもあり、まさに花や緑に関するさまざまな活動をする拠点となっています。

建物の周りは、春の花や新緑がいっぱい。香りを楽しむスイセンやムスカリ、それにローズマリーなどのハーブ類を配した「フラワーテラスガーデン」、コナラやイヌシデなど北総の里山をイメージした「ルーラルガーデン」、水辺の播物や宿根草花が植えられた「ウォーター&フラワーガーデン」、そして和風の「バンブーテラスガーデン」が取り囲んでいます。

さて、ここを離れ、散策路に出てみましょう。一周すると15分くらいですが、里山をそのまま残した小高い雑木林にはクヌギ、コナラ、カシ類などが生い茂っています。勢よく流れ落ちる滝や小川のせせらぎ、ヒバリやカワセミ、セキレイなどの鳥のさえずりに耳をすませば、気持ちが和みます。雑木林を抜けた芝生広場ではボール遊びをしたり、思い切り手足を伸ばして寝っころがったりするのもいいですね。

みどりの日の4月29日には「千葉県みどりの祭典」が開催されます。その後、引き続き公園管理事務所主催のイベントもあります。ぜひ出かけてみてはいかがでしょうか。



- 交通/北総・公団線「千葉ニュータウン中央駅」下車徒歩10分。車の場合は東関東自動車道「千葉北IC」より国道16号経由で約15km
- 入園料/無料(ただし駐車場は有料)
- 開園時間/公園内は年中無休。「花と緑の文化館」は午前9時～午後5時、月曜休館(ただし祝日、振替休日の場合は翌日)
- 問い合わせ/北総花の丘公園管理事務所 ☎0476-47-4030



シリーズ 寄稿・みどり浪漫

第1回

私にとって、夏休みに、母の実家である群馬の田舎で過ごした思い出は、宝物だ。小川で遊んだり、セミを獲ったり…。中でも、従兄弟たちと朝早く起きて出かけたカブトムシやクワガタ採取は楽しかった。振り返ってみると、子供時代のそうした思い出は、人生をずいぶん豊かなものにしてきている。

ちょうど私の子供がカブトムシやクワガタムシに興味を持っている。子供にせがまれたこともあって、親子でカブト、クワガタ狙いとなった。夏休みの早朝、親子で近所の林に入る。息子の尊敬を勝ち取るべく、私なりに戦略を考える。そうだ、確か、従兄弟たちはいつも、シワシワの幹で、ギザギザの葉っぱの木を探していたっけ。目論見通り！めでたく、我ら親子はカブトムシを捕まえることができ、感動を分かち合ったのであった。ただその時、シワシワの木、つまりクスギは必ずしも多くないという印象も覚えた。カブトムシやクワガタは、クスギがなければ育たないのに。

以来、私はクスギを探す習慣が身についでしまったようだ。ゴルフコースに出ても、どこかにクスギはないかと探す。クスギはシワの深い樹皮とギザギザの葉を持つことが特色だが、何よりもドングリの実がなることで知られている。ドングリは渋を抜けば食料にもなる。遠く縄文時代には重要な食材でもあった。

縄文時代といえば、千葉県にはその縄文遺跡が多い。県史によると、全国におよそ2,500カ所ある主要貝塚のうち、5分の1に当たるおよそ500カ所は、千葉県所在である。海が近く、気候が穏やかな千葉が、縄文人にとって住み良い土地であったことは疑う余地がない。そして、それら貝塚からは、ドングリも検出されている。遠い縄文時代から、千葉県にはクスギが多生していたのではないか。千葉の土地が、クスギの植生に合っているのならば、クスギとカブトムシで、千葉県の発展につながる事が考えられないだろうか？

東北地方では、ブナの森を残す運動が広がっている。千葉県では、クスギの森で、自然と私たちとの接点を再構築するのである。題して「クスギの森復活作戦」。

たとえば、丘陵を丸ごと借りて、そこにクスギの苗を植林する。5～6年間は成長を

待ち、その間にカブトムシやクワガタも放ち、繁殖させる。丘陵には縄文の村を作って、縄文時代の生活を復元する。縄文土器の作り方教室や、クスギの間伐材を利用したシイタケ栽培、ドングリ餅の試食などのイベントもしようではないか。それを実現するために、トラストのように、たくさんの方を集め、賛助してもらおうのである。そして、夏には会員ファミリーに開放する。たくさんの子供たちが目を輝かせてカブトムシを探すだろう。

私たち日本人には、縄文人の遺伝子、DNAが脈々と受け継がれているのだろう。こんなにも、クスギの生える里山が恋しいのだから。そんな、日本人の原風景を取り戻して提供できれば、必ずや千葉県の新観光になるのではないだろうか。

昨年の国勢調査でも、千葉県の人口は伸び悩んでいる。千葉県の経済、活力を考えると、首都圏からたくさんの方々に来てもらい、快適さや楽しさを味わってもらい、その後、そこに多くの方々に来てもらう。私たちの原風景にふれることで、自然の大切さを実感することもできるはずである。千葉県の経済にとっても、また自然にとっても有益だと思われるこの夢。そう果たせない夢ではないと考えているのであるが、いかがであろう。



株式会社ちばぎん総合研究所取締役社長 額賀 信

「ぜひ実現させたい、クスギの森復活作戦」

みどりや自然に対する夢、願い、きつと誰もが持っているにちがいないと思います。そこで、今回から新シリーズとしてそんな想いを、さまざま分野でご活躍の方に、寄稿していただくことになりました。

プロフィール

額賀 信 (ぬかが・まこと)	
昭和21年	群馬県生まれ
昭和45年	東京大学法学部卒業
同年	日本銀行入行
昭和51年～53年	オックスフォード大学留学、経済学修士卒(M. Phil)
平成2年	経営管理局経営企画課長
以降	国際局総務課長、新潟支店長、考査役、神戸支店長などを歴任
平成9年	退職し、ちばぎん総合研究所取締役副社長に就任
平成10年	同取締役社長に就任
	著書に「山は動くか」(新潟日報事業社)

株式会社ちばぎん総合研究所

●設立/平成2年2月28日 ●資本金/150百万円 ●社員/50人 ●業務内容/会員組織である「ひまわりマネジメントスクエア」を基盤とし、経営・経済情報の提供、定期講演会や情報交換会といった異業種交流の場の提供、専門家による法律・税務相談、IT支援、経営コンサルティング、研修コンサルティングなど

緑 自 慢

東金市内の田圃に建つハイセンスな校舎。それが東金市立西中学校の第一印象です。校長先生は市原昭夫先生。生徒数は461人。平成2年の開校とあって、歴史を自分たちが作るという意気込みの下、PTA、生徒、教員が、一丸となってさまざまな活動に取り組んできたそうです。

その一つがグリーンバザーです。なにしろ田んぼの真中に校舎が建っているため、緑の風は渡ってきても、緑陰あふれるというわけにはいきませんでした。そこでPTAと生徒がバザーを開催し、その収益金で木を購入し、校舎の周辺に植えたのです。その作業や維持管理にも地域の人やPTAの協力があったということです。そうした木が、今では校庭をぐるりと取り囲み、モダンな建物と美しく調和しています。

さて、そんな西中に新春早々、ビッグな朗報が届きました。昨年度の1、2年生105人が、樹木の葉から環境問題を学ぶ「こども葉っぱ判定士」に合格し、環境庁(現・環境省)

長官から認定証が送られてきたのです。

「こども葉っぱ判定士」事業というのは、環境庁が小中学生を対象に1998年度に始めた啓発事業

で、事業パンフレットに従い、観察や計算を進めると、地球温暖化や植物の光合成・呼吸、自動車の二酸化炭素排出などについて考えることができるというものです。たとえば、ステップ1のテーマは「1本の樹木が吸収する二酸化炭素の量を調べてみよう」。その観察としては樹木の「幹まわりの長さ」を計り、計算をして樹木1本の「葉の面積の合計」を求めます。一見大変なことに思えますが、パンフレットにはきちんとガイドがありますので、子供たちは自宅や近所の木の幹まわりを計れば、表で葉の面積を知ることができます。こうしてすべてのステップを終了すると、木が自然環境にとってどんなに大切かということが実感できるのです。

認定証を手にした2年生の酒井絵美子さんは「計算の結果から、まだ私たちが気をつければ自然を救えるということがわかりました。自分から行動し、今ある緑を増やしていこうと思えるようになりました」。松戸春歌さんも「難しかったけれど、友だちといっしょにやってみて楽しかった。葉っぱについて詳しくなったような気がする」との感想でした。

今後は、「こども葉っぱ判定士」事業の次のステップとして、グループで応募する「壁新聞づくり」にもチャレンジし、大臣賞獲得を目指したいとおっしゃる担当の戸村先生。そのためには、樹木の働きに関する調査や、大気をきれいに保つための工夫などについて勉強し、壁新聞を作らなければなりません。チャレンジし甲斐のある大きな目標です。がんばってください！



この本 オススメします。



おおきな木

作・絵・シェル・シルヴァスタイン
訳・ほんだきんいちろう

原題「THE GIVING TREE」
-与える木。「与える」はうれしい。ぜんぶあげて、うれしい。だけど、それはほんとかな？うれしいところは、おおいこころ。おおきなおおきな木のお話し。1964年にアメリカで初版されてから全世界でロングセラーとなっている名作。語り継ぎたい、絵本を超えた絵本である。

篠崎書林

定価1,107円(税別)



まちの森生活

中川重年・しまだしほ・鶴岡政明・
長野亮之介著

家を作る建築材はアマチュアではつくれないけれど、庭に置くベンチやイス、リビングを飾るクラフトは、私たちでも作れるはず。また、樹木は町を彩ってくれる。そんな発想から自宅や町や地域を快適に住みやすくするための具体的なアイデアが満載。

全国林業改良普及協会

定価1,000円(税別)



森の中は診療所

大沢剛著

休息を必要としている人へ、ストレスや過労で疲れている人たちへ、過食症、拒食症、アトピーで悩んでいる人へ、癒しの森からの贈り物のような本。八ヶ岳の四季折々の風景、自然の恵みを受けた春夏秋冬の料理など、目で見ても読んでも楽しめる上、自然とともに生きることのすばらしさが共有できる。

山と溪谷社

定価1,500円(税別)

*抽選で「おおきな木」「森の中は診療所」を各2名に、「まちの森生活」を3名の方にプレゼントします。ハガキに希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんずをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページの右下参照。締め切りは6月30日(当日消印有効)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

企業の中の緑

いすみ鉄道株式会社
(夷隅郡大多喜町)

春の訪れとともに、いすみ鉄道沿線はいま菜の花が見頃を迎えています。黄色の車両に、同じ色の菜の花が見事にマッチして、絵のような美しい光景を描いています。

大原と上総中野を結ぶ沿線に、社員が菜の花“菜の花”を植え始めたのは3年ほど前から。利用客の増加と沿線のイメージアップを図るために、仕事の合間に草刈りや種まきをして3か所にきれいな花を咲かせました。鉄道ファンばかりでなく、写真愛好家たちの注目を浴び、特に大多喜町・船子の国道297号線から見える沿線は、絶好の撮影ポイントになっています(写真)。

好評を得て、昨年は社員に加え、沿線の大原、夷隅、大多喜の各町がボランティアを募り、延べ2日、420人もの人たちが作業に加わりました。合計26か所、総距離 26.8kmの区間中、約半分の13km、面積にすると23,000㎡に菜の花の種をまきました。

いま乗降客の目を楽しませてくれている菜の花ですが、これだけの美しい風景を作り出すには、大変な苦勞があったそうです。「9月から10月にかけて種をまいたわけですが、雑草を刈ったのは残暑の時期です。草の背丈も伸びていて、切り倒すのもほんとうに大変だったんです。でも皆さんが協力して一生懸命やってくださいました」と、鉄道部長の石井春男さん。線路の脇は、電車の中から見るとずっと広いので、平らな所は少ないし、藪や竹の根が張ったような斜面が多くて、おまけ

に石ころが飛んでいるし……。文字通り悪戦苦闘したそうです。

「でも、花が咲いてお客様に喜んでいただくとうれしいですね。ボランティアの方たちや社員も感激していますし」と、笑顔で話す総務課長の高島洋さん。菜の花の見頃は4月いっぱい。最盛期には「菜の花号」も走るとか。「これまで菜の花だけでなくサクラの苗木とかアジサイ、コスモスなども社員で植えています。菜の花、サクラ、アジサイ、そしてコスモスと四季折々、沿線に花を咲かせるように考えているところです」と、高島さんは話します。

沿線に咲く花々を、四季折々、車窓から楽しめる日も近いことでしょう。



緑化基金へご寄附ありがとうございました。

※寄附者総数101 ※平成12年7月から12月まで。順不同、敬称は略させていただきます。

中村圭一

㈱アート造園ハタケヤマ
株赤門
㈱アサヒ造園土木
朝生林業㈱
㈱飯塚造園
㈱飯塚緑化土木
石川造園土木㈱
㈱石橋園
㈱石橋造園土木
㈱いすみ造園
伊東在豊園㈱
伊藤造園㈱
㈱井上造園
㈱植草園
㈱植正造園
植忠造園土木㈱
㈱卯田造園
大村園緑化㈱
㈱岡本グリーン
小川造園㈱

㈱小川造園

㈱上総一河園
㈱加藤造園
鎌ヶ谷造園土木㈱
河崎造園土木㈱
川西造園土木㈱
㈱幹樹園
㈱草壁園
㈱グリーンアンドアーツ
㈱京業園
京業シテイケービス㈱
京業緑化工事㈱
香樹園緑化建設㈱
㈱先風ガーデン
㈱香南園
三協グリーン㈱
山武造園土木㈱
㈱穴倉造園土木
㈱志津ガーデン
㈱秋香園
習和産業㈱

蓮光園緑化㈱

新日本植産㈱
㈱鈴穂
総武造園土木㈱
造園土木伊藤園㈱
㈱ダイカワ
高山造園土木㈱
拓殖造園土木㈱
㈱田辺造園
㈱千葉花壇
千葉砂防植産㈱
㈱千葉植物園
千葉造園土木㈱
千葉緑化土木㈱
中和造園土木㈱
㈱鶴園園
東総造園土木㈱
㈱東松園
東正造園土木㈱
㈱東城園
㈱常盤ガーデン

富岡造園㈱

㈱成田園芸
㈱成田造園土木
㈱南総造園
橋本原造園㈱
㈱馬場造園土木
林園緑地建設㈱
林造園土木㈱
㈱平戸造園土木
㈱平野園
㈱藤井造園土木
藤田造園土木㈱
フタバ緑化産業㈱
房総グリーンセールス㈱
㈱北総園芸
㈱北総造園緑化
㈱堀川植木
㈱マスケ
みかど造園㈱
三木造園土木㈱
緑造園土木㈱

㈱宮本園

㈱六三四造園
㈱モアグリーン
谷中造園土木㈱
山崎緑化建設㈱
㈱横川造園土木
㈱横芝緑化
吉野造園㈱
米本造園土木㈱
㈱緑建
(合資)林農社
㈱相田造園産業
㈱ワールド緑化
㈱渡辺造園
千葉北部ニュータウン造園㈱
㈱袖ヶ浦カンツリー倶楽部
緑の少年団交流集會参加者

春季・緑の募金のお願い

平成13年度 緑の募金運動 ■目標額3,500万円

3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は本委員会、各支庁産業課、各市町村窓口等で受け付けております。



県民の皆様の深いご理解と暖かいご支援をお願いいたします。

◎企業・学校等職場単位での募金や、催しなどでの募金運動も推進しておりますので、ご協力、ご関心のある際は本委員会までご連絡ください。



平成12年度においては春季、秋季の2回を実施し、その募金総額は35,925,299円に達しました。

お寄せいただいた募金は、みどりあふれるより良い環境づくりを目指し、学校や公園などの公共施設の緑化や、緑化思想の普及啓発に使われています。

またその一部は「地球を救え」をスローガンに世界規模での緑化運動や森林の整備にも役立てられています。

第52回千葉県みどりの祭典を開催します

第52回千葉県みどりの祭典を開催します。緑化功労者の表彰、苗木の無料配布、木工教室、クイズラリー、みどりのコンサート、農林産物の展示即売ほか、みどりに関する楽しい企画が盛りだくさん。

お気軽にご参加の上、「みどり」を感じてください。

■日 時 4月29日(日・祝)みどりの日
午前10時～

■会 場 県立北総花の丘公園(印西市多々羅田)

春のイベント参加者募集

下記の催しについて参加者を募集します。

①ふるさとの森林づくりツアー(山の植樹と展示林見学)

■日 時 4月14日(土)、午前8時30分～

■場 所 大多喜町(県有林)

*バスにて行動(出発、解散とも千葉駅付近)

■募 集 60名

■参 加 費 1,000円/人(高校生以下無料)

■応募〆切 4月2日(月)

②ケビン・ショートと歩く里山観察会

■日 時 4月29日(日)、午前、午後各1回

■場 所 印西市結縁寺周辺

■募 集 午前、午後の部 各回40名

■参 加 費 無料

■応募〆切 4月10日(火)

*往復ハガキで行事名、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、本委員会へお申し込みください。(里山観察会は午前、午後の希望も明記)申し込み多数の場合は抽選となり、結果および詳細等はハガキにてお知らせします。

苗木配布会を実施します

各家庭からの緑化を目的に苗木配布会(無償)を実施します。

■配布日時 4月25日(水)、午前11時30分～

■場 所 JR千葉駅前広場(千葉都市モノレール下)

■配布苗木 ハナカイドウ(予定) 1,000本
ミムラス(予定) 1,000本

*先着順、配布終了時点で本催しは終了します。

国土緑化運動ポスター原画コンクール 展示会のお知らせ

平成12年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品の展示会を、下記のとおり実施します。県内の小・中学生が心を込めて描いた作品で、ぜひご覧ください。

期間	場 所	展示作品
3/13～ 4/1	千葉市中央区青葉町977-1 [県立青葉の森公園 公園センター内]	●特別賞●特選 ●入選の計72点
4/23～ 5/1	千葉市中央区市場町1-1 [千葉県庁19階県民展示コーナー]	●特別賞●特選 の計36点
5/3～ 5/10	千葉市中央区新千歳1-1-1 [JR千葉駅構内中央コンコース]	●特別賞●特選 の計36点

*なお、展示作品は展示場所により、上表のようになっています。

●季節の花● マンサク(金縷梅)



写真提供/吉野儀氏

立春の頃、葉に先だって黄色でねじれたひも状の変った形の花が咲く。名前の由来には、早春に他の花に先駆けて「まず咲く」から、また花がたくさん咲いて「満作」のようだからといった説がある。秋には葉の黄葉が美しい。花言葉は呪文、靈感。まんさくに滝のぬむりのさめにけり

(加藤楸郎)

表紙の絵

表紙の作品は平成12年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、小学校低学年の部で委員会会長賞を受賞した、勝浦市立荒川小学校4学年(現5学年)・鈴木聖実さんの作品です。



グリーンえっせんず 第18号

2001年4月1日発行

発行/社 千葉県緑化推進委員会

〒299-0265 袖ヶ浦市長湊2号580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

印刷/凸版印刷(株) TEL.043-245-7071

この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。